

科目名	化学英語 A	英語科目名	English for Chemistry
開講年度・学期	平成22年度・前期	対象学科・専攻・学年	物質工学科5年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	1単位	単位種類	学修単位 (30+15) h
担当教員	武成祥	居室 (もしくは所属)	電気物質棟4階
電話	0285-20-2809	E-mail	wuc @ oyama-ct. ac. jp
授業の達成目標			
1. 発音記号を見て英語の発音がわかること。 2. 英語のスペルを見て正しい発音ができること。 3. 可算名詞と不可算名詞が区別できること。 4. 品詞の区別ができ、日本語訳もそれに応じてできること。 5. 主語と述語が分かり、日本語訳もそれに応じてできること。 6. 自動詞、他動詞の区別が付き、日本語訳もそれに応じてできること。 7. 現在、過去、未来のテンスの違いが理解でき、それに合わせた日本語訳ができること。 8. 関係代名詞が表す内容を具体的にすることができ、それを日本語訳の中で論理的に表現できること。 9. 化学英語300語を覚えること。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標1～5に対しては中間、期末試験の関連問題および課題の60%以上の成績で達成とする。 達成目標6～9に対しては期末試験の関連問題および課題の60%以上の成績で達成とする。			
評価方法			
課題40%、試験60% (中間と期末の合計) の加重平均で算出する。			
授業内容		授業内容に対する予習項目	時間
1. テキスト番号34 (Catalyst) ~45 (Alkyl fluoride) (6週)		単語調べ、訳文の作成、小テストのための学習	7
中間試験			1
2. テキスト番号46 (Cement and concrete) ~57 (Application of natural radioactivity) (8週)		単語調べ、訳文の作成、小テストのための学習	7
期末試験			
		(合計時間)	15
キーワード	化学英語、発音記号、品詞、主語、述語		
教科書	やさしい化学英語、オーム社、2003		
参考書	1. エッセンシャル化学辞典、東京化学同人、1999 2. 化学英語の活用辞典、化学同人、1999		
小山高専の教育方針1~6との対応	⑥		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(D-1) 言語の知識を習得すると同時に、語学力や会話力を身につけること			
(E-1) 外国の文化や価値観について知り、国際性を身につけること。			
JABEE基準1の(1)との関係	(a) (b) (d(2)) (f) (g)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	英語 I		
現学年の関連科目	英語 II、卒業研究		
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
専門英語の読解力、和訳、英訳、そして、聞くと話す力もこの講義で身につけましょう。 積極的に楽しく授業参加しましょう。 集中力を高め、レベルアップを目指しましょう。			
シラバス作成年月日	: 平成22年3月1日		